

ニューズレター 2014 年度第 2 号

日本音楽表現学会 2014 年 11 月 30 日発行

目 次

【巻 頭 言】 学会の組織 小畑 郁男	2
【随 筆】 音の記憶 豊田 典子	3
【新譜紹介】 山名敏之：ハイドンと 18 世紀を彩った鍵盤楽器たち.....	長岡 功	4
新入会員紹介	5
日本音楽表現学会後援コンサート等情報	6
会員による新刊	6
学会ロゴ募集！	7
『音楽表現学』Vol.13 原稿募集	7
音楽表現研究の原稿を書くために	8
事務局からのお知らせとお願い	10
第 13 回沖縄大会研究発表募集	11
日本音楽表現学会第 13 回沖縄大会ご案内	12
2012 年度役員一覧・編集後記	12

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費 (5,000 円) の振り込み

→郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

学 会 の 組 織

小畑 郁男（作曲・音楽表現理論／財務局長）

2014年度も半ばを過ぎた現在、日本音楽表現学会は約450人の会員から成っています。少人数で充足した当初と比べて、学会の運営にまつわる緒業務が本質的に変化したわけではありませんが、会員数の増加につれ、個々の作業量は増大し、その処理を正確・迅速に行っていくためのシステムの整備も求められるようになってまいりました。このような状況を背景に、第12回（まほろば）大会におきまして、理事は6人から8人体制へ、編集委員会もまた6人から8人体制へ移行することが決定されました。

役割の分担は細分化されることとなりますが、会発足以来の、「それぞれの役割を越えて互いに助け合う」という美習を継承し、スムーズな会の運営が実行されますよう、役員一同、努力して参りたいと考えております。

理事会は、選挙で選ばれる会長と理事（副会長、事務局、財務局、総務）から構成されています。学会に関する諸事項—運営、大会の企画、予算案・決算報告書の作成など—は理事会で論議され、決定されていくこととなります。

会長は日本音楽表現学会の代表者であり、学会の統括を行います。理事会で行われる様々な論議を受けて、最終的に会長が整理、決定する場合も少なくありません。

会則に記載されてはいませんが、会長の相談役として会長諮問会議があります。会長諮問会議は、理事会より委嘱される役員経験者によって構成され、学会運営のサポートを行います。

副会長は会長の補佐を行います。具体的には、事務局局長提案事項のサポート、学会ホームページの管理や会員名簿への記載事項の確認などを行っています。

事務局は、渉外や学会の記録、学会運営に関する諸事を担当します。例えば、外部からの問い合わせ

についての対応、会員の入退会に関する諸手続き、演奏会後援の承認などは事務局が担当しています。事務局長は事務局の責任者であると同時に、学会運営の実務に関する統括者としての役割を担います。

財務局は会計業務を担当します。一般会計に関する予算案の作成、実行、決算と報告。並びに、大会会計に関する予算案の作成、実行、決算と報告が、主たる業務となります。学会の口座のスムーズな運営を行うために、外部金融機関に対しては、財務局長が学会の代表者となることが第12回大会で承認されました。

総務理事は学会の発行物や会長・理事選挙の統括を担当します。ニューズレターや学会誌に関しては、編集や校正、学会論文集の立案や会員名簿の発行、選挙に関しては、選挙人名簿・被選挙人名簿の作成、公示などが総務局の役割です。

会計の実務が決算の正当に行われているかどうかの検証は、理事会が推薦し、総会で承認を受ける会計監査によって行われます。

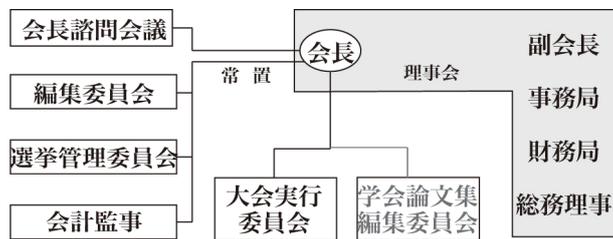
本学会に常置されている編集

委員会は、投稿論文の掲載に関する業務を行います。査読者の選定、投稿論文の審査、内容や書式に関する助言、再投稿論文の審査など業務の内容は多岐にわたります。また、学会論文集を公刊するときにはそのための委員会が臨時に組織されます。

選挙管理委員会は、公正な選挙を実施するための委員会です。

その他に、運営の実務を支えていただく参事の方々がいます。

学会の運営には様々な力が必要です。会員各位におかれましても、何らかの形で会の運営に深くかかわっていただき、個を繋ぐ、一大ネットワークとして、日本音楽表現学会が機能していくことを願う次第です。



日本音楽表現学会組織図

音の記憶

豊田典子（事務局担当理事・声楽）

音楽の道を志す、志さないに限らず、人にはそれぞれ忘れられない音の記憶、音との出会いがあるのではないのでしょうか。

先日、マリンバ奏者種谷睦子氏の「マリンバ一筋65年のコンサート」を聴きました。圧倒的なテクニックと、泉のように湧き続ける音楽への情熱を感じさせる素晴らしいステージでした。

舞台転換の間のインタビューで、氏は、自分のマリンバとの出会いはピアノのレッスン教室であったと話されました。まだ幼かった氏は、その日たまたまピアノの先生とのアンサンブル練習に来られていた打楽器奏者がお持ちになったコンサート用マリンバの音を聴かれたのでした。その時から「木の音」に魅せられ、マリンバ奏者となり、「木の音への憧れ」は尽きることがないと楽しそうに語られました。

素敵な音との運命的な出会い、音の記憶がその人の生き方を照らし、豊かにしていくことがあるのだと思い至った夜でした。

帰り道、私は電車に揺られながら自身の遠い記憶の底に沈む素敵な音たちを思い出していました。夏の朝、ザルツブルグの街に響き渡った遠い教会の鐘の音。ロストロポーヴィチがアンコールで演奏したバッハの無伴奏の最後の一言・・・どれも思い出と共に魂の奥深く刻み込まれた音の記憶です。

中でも、私の思い出せる限り最も遠い音の記憶。それは、祖母の弾くトイ・ピアノの音です。正確な音感を養うべき幼児期に、不安定なトイ・ピアノの音を連日聴かせるなどもっての外であったかもしれません。しかし、祖母は私に、毎日たくさんの歌を弾いて聴かせてくれたのです。大正生まれの祖母は、幼い頃に大火傷をし、右手の指を失くしました。音楽は好きだったけれど、生涯両手でピアノを弾くことも、まして自分の楽器を持つことは到底望めなかったのです。それでも片手で鍵盤を弾くことを覚え、幼い私に、左手でトイ・ピアノを弾き、たくさんの童謡を歌って聴かせた

のでした。

それから何年も経ってから、我が家にピアノが来たときも、祖母はひとりピアノに向かって好きなうたを弾いて歌っておりました。祖母が亡くなって、もう20年近くなるのに、その夜、ふとそのことを思い出しました。不自由な右手に代わり、料理も裁縫も家事もすべてのことをこなしていた祖母の左手。その少し厳つい指で狭い鍵盤を器用に弾き、歌ってくれた情景と、その音の記憶が蘇ったのでした。

思い返せば、それが私を音楽の道へ導いた最初の音だったように思います。

イタリアオペラも、ドイツリートも大好きです。でも私は、やはり美しい日本の歌を歌いたい。祖母の愛した日本語の歌をたくさんの方に心を込めて届けたい。今ではそれは、私のライフワークとなっています。

大学に勤めるようになってから、私は音楽を通して地域や幼稚園・保育園・施設へのアウトリーチも行っています。学生と行う地域子育て支援の場でのコンサートや音遊びのイベント。素敵な仲間と行う訪問演奏会。お母さんに抱かれた子どもたち、幼稚園、保育所の子どもたちが、音楽を聴いて体を動かし、歌い、楽器に触れて、晴れやかに笑う。

その姿を見ながら、今日のこの音が、この体験が、この子たちにとって記憶に残る音であれば、と思うのです。素敵な音との出会いの時を提供できたらと願うのです。心に届く音との出会い。しかし、その出会いは、いつどこで起こるか、誰にもわからない。だから音楽するって楽しい。音楽って素晴らしいと思いつけて活動することだけ。

誰かのために、そんな記憶に残る音を自分の活動を通して届けることができたらと思いつつ、私は今日も歌い、子どものための音楽会を創る活動を続けています。

祖母は天国で喜んでくれているのでしょうか？

ハイドンと 18 世紀を彩った鍵盤楽器たち

長岡 功 (ピアノ/岡山大学)

2009～12年に「ハイドン・クラヴィーア大全」としてハイドンの全クラヴィーア曲をクラヴィコード、チェンバロ、フォルテピアノによって公開演奏された山名敏之さん(和歌山大学教育学部)が、「ハイドンと 18 世紀を彩った鍵盤楽器たち」という CD をリリースされました。

18 世紀、それは、鍵盤音楽が対位法のくびきから解放され、「ソナタ」という新しい様式を確立していく時代であり、1709 年にクリストフォリが考案した「クラヴィチェンバロ コル ピアノ エ フォルテ」がドイツやイギリスで多様な発展を見せ、チェンバロやクラヴィコードと共存している時代でした。ハイドン(1732～1809)は、当にその時代を生きた作曲家なので、鍵盤作品の様式の変化はもちろん、その創作過程において、どの楽器からインスピレーションを得、どの楽器で演奏されることを想定していたかを考えることは、モダンピアノの演奏者にとって大変興味深いことです。

モダンピアノとの構造や発音原理の差異が、響きや演奏解釈の違いにどのような形として現れるのでしょうか？ この CD で山名さんは、《カプリッチョト長調 Hob.XVII/1》とシュトルム・ウント・ドラング様式を持つ中期の名作、《ソナタハ短調 Hob.XVI/20》、そして、今日最も演奏機会の多い作品と言ってよい晩年ロンドン時代の作品、《ソナタ変ホ長調 Hob.XVI/52》を取り上げ、音楽表現学会大会の分科会やワークショップでお馴染みのご自身所有の楽器——クラヴィコード、チェンバロ、フォルテピアノ——で弾き分けていかれます。

CD をトレーに置いて再生を始めると、まず各楽器の典雅な音色に心を奪われます。この音色を聴くだけでも一聴の価値があります。特にクラヴィコードの豊かな表現力、この楽器を当時の音楽家たちが愛した理由がよく分かります。タンジェントの付いた鍵盤を通して、弦との接触や振動を指先で感じながら演奏する鍵盤楽器、そしてこの延

長線におそらく設計思想があろうフォルテピアノ・・・それらは、明快で直線的なテンポ感やダイナミック・レンジの豊かさを追及するのは全く異なる表現を、弾き手に志向させるのだと思います。山名さんの演奏から感じる豊かで自在なアゴギグや音のずらしは、それはもう「見事」の一言に尽きます。オリジナル楽器によって、古典派の作曲家であるハイドンの作品がこんなに自由な息吹で再現されていく姿は、私にとって衝撃であり、「もう一度この作品と深く向かい合ってみたい」という欲求を起こしてくれました。

私が山名さんのテーズだと感じるのが、クラヴィコードによる、《ソナタ変ホ長調 Hob.XVI/52》の演奏です。ベートーヴェン的な響きを先取りしているこの作品は、響きの豊かなイギリス式アクションのフォルテピアノを念頭にハイドンが作曲した作品であるとされています。だとすると、楽器選択のファースト・チョイスはフォルテピアノのはずです。それを取ってダンパー・ペダルを持たず、音量が極小さいクラヴィコードで演奏することについて、山名さんはこの CD の解説の中で次のように述べられています。

この曲においては、①音がいつどのように切り上げられまた繋げられたのか、②どのようなタイミングで次の音が発音されたのか、が重要であり、この 2 点が 18 世紀後半の弦楽アンサンブルのアーティキュレーション法と通底していることが、ペダル効果を持たないクラヴィコードの演奏によって明らかになるのです。

それがどのようなものなのか、それは私がここで語るより、皆様が実際にお聴きになるのが一番だと思います。そして最後にこの CD は演奏だけではなく、山名さんによって書き下ろされた解説がまた非常に興味深い読み物となっていることを申し添えたいと思います。

ALM Records ALCD-9138 定価：2896 円

新入会員紹介

プライバシーに抵触するため内容を伏せています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

中村 隆夫さん **札幌コダライ合唱団・合奏団 CHRISTMAS CONCERT 2014**
日 時：2015年12月12日（金）19:00 開演
会 場：札幌市生涯学習センター「ちえりあホール」
曲 目：W. A. モーツァルトの作品から《女より生まれし者のうち》KV 72 (74f)
《天のお妃さま (Regina coeli)》KV 127 他
指 揮：中村 隆夫 ソプラノ・ソロ：一鐵久美子

{ 加藤 晴子さん **岐阜聖徳学園大学専任教員によるスプリングコンサート**
荒木 善子さん 日 時：2015年3月8日（日）14:00 開演
亀井 良幸さん 会 場：岐阜市文化センター
趣 旨：地域への文化発信，地域と大学との交流
主な内容：ソプラノ，メゾソプラノ独唱，ピアノ独奏，クラリネット，アンサンブル，作品発表
共 演 者：荒木善子，亀井良幸，村田睦美，加藤晴子，深貝美子，大地宏子，大西隆之

会員による新刊

宮田 知絵さん **故郷 ふるさと—音楽教育 小学校で学ぶ歌 全 24 曲**
出 版 社：ファウエム ミュージック コーポレーション ISBN978-4-9905887-6-2
定 価：本体 1500 円＋税
出版年月：2014年8月

藤原 嘉文さん **西風の記憶～トロンボーンとピアノのための**（2013年12月ドイツにて初演）
出 版 社：KOOWS Edition、<http://brass-band.jp/KOOWS-Edition/>（オンデマンド出版）
定 価：3,400 円＋税（スコア&パート譜）
出版年月：2014年7月

新山王政和さん **日本の学校吹奏楽を科学する**
出 版 社：(株)スタイルノート ISBN978-4-7998-0122-2
定 価：本体 2000 円＋税
出版年月：初版 2013年12月、第二刷 2014年11月

安藤 政輝さん **箏・三絃・尺八 対照譜 『宮城道雄作曲集』**
《遠 砧》《虫の武蔵野》《都 踊》《比 良》《唐 砧》《若 水》
出 版 社：甲楽出版
定 価：700 円～1,200 円＋税
出版年月：2014年11月
取り扱い：Amazon 他ネットショップで取り扱い中



学会ロゴデザイン募集!

日本音楽表現学会ではこの度「学会ロゴ」デザインを公募することになりました。会員のみならずから広くすばらしいロゴアイデアが寄せられることを期待しています。

1. 趣 旨：学会の象徴として、機関誌『音楽表現学』表紙、『大会要項』表紙やポスター、ニューズレターなど、本学会に関係する印刷物、イベント等に使用します。
2. 応募資格：日本音楽表現学会会員
3. 作品サイズ：自由。10mm×10mm に縮小をかけても鮮明なもの。
4. 応募用紙：特定の用紙はありません。
5. 応募方法：デザインデータをハードコピーと共に学会事務局宛お送りください。
〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6 music-expression@music-expresshion.sakura.ne.jp
6. 応募〆切：2015年2月20日(金)
7. 選考方法：応募作品をNL 2014-No.3誌上で掲示、会員の投票を参考として理事会で選考、総会で発表・承認。
8. 問い合わせ：学会事務局 music-expression@music-expresshion.sakura.ne.jp

『音楽表現学』vol.13 原稿募集!

学会誌編集委員長 菅 道子

以下をご覧の上、ふるってご応募ください。

原稿種別：

投	(1) 原著論文 (Original paper)：音楽の演奏、創作、教育等に関する研究論文で、学術研究としての形式を備え、独自の知見を示しているもの。
稿	(2) 評論論文 (Review article)：音楽の演奏、創作、教育等に関する独自の見解を論理的に検証するもの。
原	(3) 研究報告 (Short report)：試験的報告、内外諸研究の追試的検討、研究資料の公表、新しい方法の提案など。
稿	(4) 寄書 (Letter to the editor)：研究速報、討論、提案、学会に対する意見など。
依	(5) 展望：今日的な問題に関して、今後の展望を記述したもの。
嘱	(6) 解説：特定の主題について、専門外の者にも分かりやすい解説など。
原	(7) その他、国際会議参加報告、書評、研究所紹介など。
稿	

投稿資格：投稿者および共同執筆者は、その年度の年会費を納入した会員に限る。(投稿規定3)

執筆要領・投稿方法：『音楽表現学』Vol.11の巻末、または学会HPの「投稿規程」をご覧ください。

投稿書式：投稿時点では2段組でなく、1段組でご応募ください。

投稿〆切：2015年5月31日(日)です。

執筆方法：本学会発行『研究論文執筆のしおり』を参考にされることをお勧めします。

引用文献の記載方法：HPに例示しています。

本学会では、研究論文・報告等の執筆経験が少ない学会員のために『研究論文執筆のしおり』(2012年本学会発行)を発行しています。最近入会された会員からはこの冊子の希望が届いていますが、払底しています。そこでニーズに応えるべく、本年度末には『研究論文執筆のしおり増補版(仮)』を発行する予定ですが、それまでの間、参考にしていただけるよう『研究論文執筆のしおり』の中からいくつかの項目を抜粋して次頁に掲載します。(事務局)

音楽表現の研究について原稿を書くために

1. 研究論文・研究報告と随筆・随想との違い

原稿執筆の目的は、執筆者の問題意識・仮説・推論と課題解決・検証の内容と方法、その結果得られた結論を読者に伝え、納得してもらうことである。この目的は全ての応募原稿の種別に共通している。この目的を達成するためには、まず、執筆者自身の意見・主張があること、それを伝えるための手続き、すなわち全体の構成および各段落と各文章の論理性が必要不可欠である。研究論文・原稿は、自分の意見や印象を披瀝する随筆や随想とは全く別物である。随筆にならないためのチェックポイントは以下の3点である。

- ①気持ちではなく意見が書かれているか。
- ②事実と意見は区別して書かれているか。
- ③問題意識の背景、理由、経緯等が書かれているか。

2. 原稿執筆に取りかかる前に

準備の過程を丁寧に進めることが論理的な原稿を書くことに直結する。それは具体的な事象を関連付け、それらの事象を説明できる理論を組み立てていく過程である。ポイントは次の2点である。

1) その原稿で主張したいこととその根拠を箇条書きにする。主張したいことを明確に言葉で把握することが最初の、しかも最も重要な作業である。その作業の中で原稿の骨子が浮かび上がってくるだろう。推論や仮説を検証するために必要な項目がその作業の中で明確になる。主張は、このような作業によって説得力を増してくる。

なお、原稿を書く中でこの部分に修正を加える必要が出てくるかもしれない。それは、楽曲を練習するうちにその曲が新しい表情を持つてくるようになるのと共通している。そのような場合には必要に応じて修正を加えていくことを勧める。

2) 関連する先行研究を収集して閲覧する。主張したいことは既に研究が行われている可能性がある。しかし、同じような問題意識の先行研究を見つけてもガッカリする必要はない。それらをよく読んでみると、問題意識が微妙に違うかもわからないし、検証の方法が全く異なるかもしれない。逆に先行研究を1)の箇条書きと比較することによつ

て執筆しようとする主張の独自性が浮かび上がり、問題意識が深まると共に、執筆の目的が明確になる。1本の先行研究から別の先行研究を発見することもできる。先行研究の探索は以下のサイトの閲覧から始める。

- ・「Cinii」(国立情報学研究所(NII)論文情報ナビゲータ) <http://ci.nii.ac.jp/>
- ・「NDL-OPAC」(国立国会図書館の所蔵資料の検索・申込システム) <https://ndlopac.ndl.go.jp/>
- ・「CiNii Books」(大学図書館収蔵書籍の検索) <http://ci.nii.ac.jp/books/>

3. 全体構成を考える

説明のための文章は、結論や解決すべき問題、問題解決法の方向性などを先に延べ、その後に理由や具体的な問題解決の方法を述べるという順序で進められる。そのために論文は次のような構成をとることが多い。章・項目立てで全体の流れが描けていることが重要である。

- ・序論(はじめに):背景・先行研究→問題提起(仮説)→問題解決方法の予告
- ・本論:内容と方法によって構成は異なる。この部分を複数に分割して各項目を焦点化することがよく行われる。先行研究について詳細に検討する場合には、この部分の冒頭に項目を設ける。実験研究や実践研究ではこの部分の冒頭に研究方法・手続きを記載する。いずれにせよ項目ごとに論拠を譜例やデータ等で裏付け、結果に基づいて自分の見解を示した上で、最終的な結論を導き出す。結論は結びにもってきてもよい。
- ・結び:(結論)→内容確認(まとめ)→展望・今後の課題

4. 段落について

論文の各部分は複数の段落によって構成される。一つの段落には一つのトピックス。段落の冒頭にはその段落の主張を一文でまとめて書き、その後に主張の理由や例証をあげる。末尾でその主張を確認することもよい。読みやすい原稿の段落は、結論が先にきて、枝葉の話題は後ろになっている。このような段落を積み木のように重ねていく。「2の1)」で述

べた箇条書きと対照させながら作業を進めると論旨を堅固にすることができる。

5. 文章について

各段落は複数の文章によって構成される。一つの文章に複数の主語や述語を含めると文章構成が混乱しやすくなる。読み手にわかりやすい簡潔な文章を心がける。わかりやすい文章の書き方の要点を以下に挙げる。

- ・美文表現に精魂を傾けるのではなく、事実在即して具体的に記述する。
- ・箇条書きを適度に利用する。
 - ・「である調」
- ・敬語は不要
- ・主語述語関係の緊密にして簡潔な文章を重ねる。
- ・簡潔な文章を適切な接続詞で繋ぐ。なお、「が、」は多義的なので論旨が曖昧になる。まず、以下の接続詞に置き換えて考える。
 - (1) 順接の接続詞：そのため（に）、したがって、そこで、では、まず、等
 - (2) 逆説の接続詞：しかし、だが、ところが、にもかかわらず、等
 - (3) 並立の接続詞：および、ならびに、また、かつ、等
 - (4) 添加の接続詞：しかも、そのうえ、さらに、等
 - (5) 選択の接続詞：あるいは、または、もしくは、ないし（は）、等
 - (6) 説明の接続詞：ただし、もつとも、なお、ちなみ、等
- ・用語は統一する。たとえば、「執筆者」と「筆者」が混在してはいけない。全文にわたってどちらかに統一する。
- ・原稿は、読者に執筆者の主張を理解してもらうため

のものである。したがって「周知のごとく」「自明である」などは無意味である。執筆者の主張を丁寧に記述する。独りよがりにならないために、「読者」の顔を想定して書く。自分にとって「当たり前」のことは、他人にとって必ずしも当たり前ではない。また、ストーリーの展開にさし障りのある説明は、注をうまく利用する。

6. 原稿を一応書き終えたら

推敲の丁寧に進めることが論理的な原稿を完成させることに直結する。チェック・ポイントは次の点である。

- ・執筆者の主張・意見は読者にとって理解可能だろうか。
- ・多数の主張や意見が混在していないか。
- ・主張・意見は適切な方法で検証されているか。それらは妥当性をもっているか。順序よく配置されているか。

7. 完成度の高い原稿は次の要件を満たしている。

- (1) 独創性：内容に著者の独創性・独自性があること。
- (2) 有効性：内容が音楽表現学の発展に役立つものであること。
- (3) 論理性：内容が明確に記述されていて読者が誤解なく理解できるものであること。
- (4) 文章表現：句読点の表記法や注・引用文献の書き方、誤字脱字、用語の統一等、

なお、投稿の内容が読者から見て信用できるものであることは前提条件であり、著作権に関わるような他人の原稿の無断借用、他学会機関誌や大学紀要等における掲載論文の再投稿・同時投稿、人権に抵触する原稿は認められない。

事務局からのお知らせとお願い

1. 『音楽表現学』Vol.12 刊行 & Vol.13 投稿募集

『音楽表現学』Vol.12 をお届けいたします。今号は「展望」「書評」「追悼文」など多彩な記事を取録することができました。内容の広がりや学会の成長の証しです。

p.7 に記載されているように Vol.13 の投稿締め切りは 2015 年 5 月 31 日。皆様からのますます活発なご投稿をお待ちいたします。

2. 『会員名簿 2014 年度版』発行！

〔会員情報フォーム〕へのご登録ありがとうございました。今回、『会員名簿』を同封しています。ご登録いただきました内容に変更が生じた場合には、必ず速やかに事務局までお届けくださいますように、お願い申し上げます。

- ・名簿は学会員の相互交流による研究の発展を目的として隔年発行、内容は会員の申告を基にしています。

- ・記載項目は専門分野は全員記載、所属機関名、メールアドレス、連絡先。連絡用電話とFAXは非公開をご希望の場合には記載していません。また、携帯番号も削除しました。
- ・専門分野の表示は、まちまちでしたので、公約数と考えられるところで統一しました。
- ・本来の目的以外の使用やコピー、会員外の閲覧に供することを禁じます。
- 回答を寄せられなかった会員については入会時の専門分野を記載しています。
- ・名簿が学会員の相互交流に役立つことを願っています。またそれ以外の目的には使用しないでください。プライバシーに触れますので取扱にはくれぐれもご注意をお願いします。

3. 会費納入について

- ・年会費未納の方には、今回「未納年会費納入のお願い」を同封しています。学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されております。機関誌の発行、大会の開催などさまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。納入の際には必ず会員名簿登録のご氏名でお振込みください。
 なお、会則により、3年以上年会費滞納の場合には「除名」となりますので、ご注意下さい。(行き違いご送金済みの場合はご容赦願います。)
- ・年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」を掲載していますので、ご参照下さい。なお、学生会員は、学部生に限られます(会則第5条)。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の時は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモをお残しいただくことをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めての領収書発行はいたしておりません。
- * 以上、ご不明の点につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

4. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

ご希望の方はメール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料
 Vol.4～Vol.12は1部3000円+送料
 一般価格：Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料

Vol.4～Vol.12は1部3500円+送料
 大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

5. ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。テーマは自由です。皆様のご投稿をお待ちします。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内
- ・コンサート案内：学会後援のものを掲載します。申請には学会HPの申請フォームをお使いください。
- ・新刊案内・CD/DVDリリース案内：会員による刊行物等の紹介を行います。上梓されましたら購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

6. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ・大会の口頭発表は、これまでの研究を発信し、それを参加者一同と共有する場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ・コンサート・出版物等の後援または協賛とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベント、出版物の刊行などの活動を「後援」「協賛」します。申請には学会HPの申請フォームをお使いください。

7. 「入会申込書」書式

「入会申込書」書式はHPからもダウンロードできます。メール本文貼り付け、またはワード文書添付、あるいは郵送で事務局まで送付してください。なお、「音楽表現学会に期待されること。ご意見等はニュースレターの「新入会員の紹介」記事として掲載させていただきます。

日本音楽表現学会第 13 回大会研究発表募集

★ 沖縄で研究を発表しよう！

発表形態と時間：

- ・研究発表：会員個人による研究発表 30 分と質疑 10 分 合計 40 分
- ・共同研究：2 人以上の共同による研究発表と質疑 内容により 40 分または 90 分
- ・ワークショップ：実践体験を含むプレゼンテーションと質疑 内容により 40 分または 90 分
- ・デモンストレーション VTR 作品上映などと質疑 内容により 40 分または 90 分

発表申込：発表タイトルと発表形態、概要（200 字以内）を下記の様式にしたがってお申し込みください。

概要は本年度から申込みと同時に付けていただくことになりました。概要の書き方で審査するわけではありません。発表したいとお考えの内容を簡単に分かりやすくお知らせください。

切：2014 年 2 月 28 日（金）

昨年も、発表申込切に間に合わなかったために、残念な思いをされた方がありました。みなさま、どうぞお忘れなく！

申込先：学会事務局 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp 宛

* 『大会要項』原稿についての詳細は、申込受付後に申込者にお知らせします。

日本音楽表現学会第 13 回大会に発表を申し込みます。

1. 氏名 _____
2. 連絡先住所 〒 _____
電話 _____
E-mail _____
3. 発表形態と題目 該当欄に○をつけてください。
() 研究発表 題目 _____
希望発表時間 () 40 分 () 90 分
() 共同研究 題目 _____
希望発表時間 () 40 分 () 90 分
() ワークショップ 題目 _____
希望発表時間 () 40 分 () 90 分
() デモンストレーション 題目 _____
希望発表時間 () 40 分 () 90 分
4. 使用予定機器 該当欄に○をつけてください。
ア) ピアノ イ) 鍵盤楽器 ウ) 譜面台
エ) プロジェクタとスクリーン オ) CD プレーヤー
カ) DVD プレーヤー キ) その他
* MD の再生はできません。
5. 概要（200 字）

日本音楽表現学会第13回沖縄大会ご案内

沖縄で音楽表現について共に語り合おう！

- ・基調講演：毎年「日本音楽表現学会」ならではの刺戟に満ちた講師と内容。沖縄ではなにが飛び出すか！
- ・シンポジウム：基調講演に引き続き、テーマを多角的に捉えてユニークな見解が次々と表明される！
- ・学会企画パネル・ディスカッション：ワークショップが10回を数え、沖縄大会から新規企画が始まる！
- ・サロン：専門・関心と同じくする仲間との語り合い、互いに高め合おう！
- ・研究発表、共同研究、ワークショップ、デモンストレーション：自分の研究を持ち寄って成果を問うてみよう！

会 場：沖縄県立芸術大学（〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4）

会 期：2015年6月20日（土）、21日（日）

実行委員長：小西潤子

会場へのアクセスと宿泊：

最寄りの空港から那覇空港へ。ホテルの宿泊付き格安早割航空券がおすすめです。

ロケーション：首里城守礼門から徒歩5分、那覇中心部から5km程度。



大学正門ではシーサーがお出迎え

首里当蔵キャンパスへのアクセス：

那覇空港からはモノレールが便利です。那覇空港駅より首里駅まで約35分 県庁前駅より14分 首里駅より徒歩約10分 首里城方面に向かい、龍潭通りをローソンの角、当蔵交差点を左、すぐ。レンタカー、バスも利用可能です。

2014年度役員一覧

会 長： 安藤 政輝
副 会 長： 後藤 丹 小西 潤子
事 務 局 長： 奥 忍
財 務 局 長： 小畑 郁男
理 事： 豊田 典子（事務局担当）
木下 千代 藤原 嘉文（総務担当）
應和 恵子（会計担当）
編集委員会：
委員長 菅 道子
副委員長 中村 隆夫
委員 小野 亮祐 澤田まゆみ
志民 一成 曾田 裕司
選挙管理委員会：
委員長 中 磯子
委員 鈴木慎一朗 西野晴香
監 事： 海津 幸子 谷口 雄資
会長諮問会議： 草下 實 佐々木正利
杉江 淑子 安田 香
参 事： 似内裕美子 松井 萌
近藤 晶子

編集後記

早いものでもう師走。まほろば大会で決議された新しい体制での理事業務もはや半年になります。新米理事の私など、飛び交うメールに右往左往の日々ですが、学会のために少しでもお役に立てればと思っております。新しい組織については本誌p.2に詳しく書かれておりますが、「音楽」そのものを本音で語り合える場であることが本学会の素晴らしいところだと、私は思っています。組織体制が強化されても、この良さは永遠（！）です。この点を大切にしながら学会がなお一層発展していくように願っております。

学会ロゴデザイン募集、『音楽表現学』原稿募集、第13回大会（沖縄）研究発表募集と盛りだくさんです。多くのおみなさんのご応募をお待ちしております。

（藤原 嘉文）